ゴジカラ村

【キーワード】
〔施設種別〕■高齢者施設　□障がい者施設　■子ども施設　■住宅　()
〔運営主体〕■市区町村　■法人　□ NPO　■個人　　〔補助金〕□内閣府　□国土交通省　■厚生労働省　()
〔建物形式〕□ 1 棟単体型　□複数棟集合型　□団地型　　〔建物状況〕■新築　□増築　□改修　■一部改修　□既存
〔対象者〕■高齢者　□障がい者　■子ども　■ファミリー　■多世代

写真 1. ゴジカラ村の俯瞰写真 (Googlemap より)

ゴジカラ村は、高齢者のための介護福祉施設（特別養護老人ホーム・ケアハウス・訪問看護ステーション・ショートステイ・デイサービスセンター）、幼稚園、子育て支援拠点、看護の専門学校が併設された「村」である。木造と施設っぽさを感じさせない間取りとなっており、温かみのある木造建築物となっている。

■施設概要

所在地：愛知県長久手市根嶽 1201
施設種別：特別養護老人ホーム
　　ケアハウス
　　訪問看護ステーション
　　ショートステイ
　　デイサービスセンター
　　幼稚園
　　子育て支援拠点
　　看護専門学校
運営主体：社会福祉法人愛知たいようの杜
　　学校法人吉田学園
　　ゴジカラ村役場株式会社
設計：榑建築設計室
　　中村勉総合建築事務所　他
敷地面積：約 33,000㎡
運営開始：1981 年 4 月（愛知たいよう幼稚園）

写真 2.　立地周辺（Googlemap より）
名古屋市の中心部から約 10km 離れた住宅街の小高い雑木林の中に位置している。住宅街の中だが、自然が豊かであるため交通の不便は特に無い敷地である。

■運営概要

運営開始当時、地域の幼稚園では、子どもたちは 1 日の 3 割程度の時間しか外で過ごしておらず、現代の子どもが自然と共生しながら安心して過ごすことができる空間が不足していることを問題視していた吉田一平氏（1981 年の現長久手市長）は、子ども達が思い切り駆け回ることのできる幼稚園を雑木林の中につくり上げることを目的に計画され、「愛知たいよう幼稚園」

写真 3. 自然豊かな敷地
傾斜地に沿うように各建築物の配置がなされている。雑木林の中に木造建築があるという風景は、住民からのニーズに応えた事によって生まれた。

如」「子どもたちが自然と共生できる空間の欠如」「人と関わる機会の欠如」という諸問題が挙げられた。ここからゴジカラ村では、原風景という地域の特性を活かし、住民の共通感覚に沿うようなコンセプトの設定をし、住民が親しみやすさを感じやすい空間づくりにつながることを最重要要素とした。結果、目指すまちのビジョンとして「多世代がそれぞれの役割を有し、自然と共生できるまち」必要な機能として、「住民の交流」に着目したまちの計画が行われた。

これらを実現させるため、住民にとって親しみやすい空間を提供できるようにするため、木は極力伐採せず、雑木林の中にひっそり木造の建物や古民家を点在させる等、「地域の原風景の再生」を構想した。また、ゴジカラ村内では、「施設っぽさ」を感じさせる真っ直ぐな廊下、均等な部屋の設置、一般的な玄関構造（受付の先に事務所があるなどの配置）が排除されている。暖かみが感じられる木造建築を採用し、敢えてランダムに部屋を配置するというマスタープランを構想し、どの施設でも「住まい」に近い自然な空間づくり、住民が愛着や誇りを感じやすい空間づくりとなっている。

■事業計画と地域資源の活用

ゴジカラ村では事業計画の実行にあたって、住民に担い手として活躍してもらえるよう、ボランティア経験のある地域の高齢者に有償ボランティア組織「まちや住民を見守る」役割を担うよう、施設のプレーヤーを募った。また、高齢者施設と併設した専門学校という配置環境を活かし、専門学校の学生に高齢者施設の宿直をアルバイトとして対応するなど高齢者、住民、学生を巻き込んだ1種の村を運営するにあたってのプレーヤーとして機能している。

■ゴジカラ村での高齢者対応

ゴジカラ村では、地域の高齢者が最期までまちの中で生活できることを想定している。自宅で過ごすことができる健常時は、デイサービスセンターや訪問看護ステーションを活用し、介護度が上がるにつれて、ケアハウス、特別養護老人ホームの順に住み替えるというゴジカラ村を軸に段階が踏まれるようになっている。

ケアハウスの住民としては、身の回りのことが自身で出来る、自立した高齢者（要介護２まで）、特別養護老人ホームの住民としては、要介護度３以上の方を想定して

写真５. 既存の古民家

写真６. 施設間の通路
住民の他の建物との配置関係や建物間のつながりを意識した通路。会話がなくても、なんとなく存在がわかる、「村らしさ」が表れている

写真７. もりのようちえん内観写真
暖炉、木製の家具、バルコニーと住まいらしさ感じられる。「子どもたちが自然と共生できる空間の欠如」という問題に対応した内部空間となっている」。

参考文献
1）JIHa 2010 7 月号　参照平成 29 年 12 月 11 日
2）高齢者の地域生活の利便性を高める取組みに関する調査研究事業報告書　三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング　平成 26 年 3 月　参照平成 29 年 12 月 11 日

が設立された。しかし幼稚園という 1 つの施設によって地域の子供に対する課題・ニーズが解決された一方、また別の地域の課題や住民のニーズが存在し、一つの施設では用途に応えられないニーズが出現した。そのため事業者の吉田氏らは、幼稚園を開業した後も、地域住民の意見を集めることを続け、そこから導き出されたニーズに応えるような姿勢を持ち続けた。

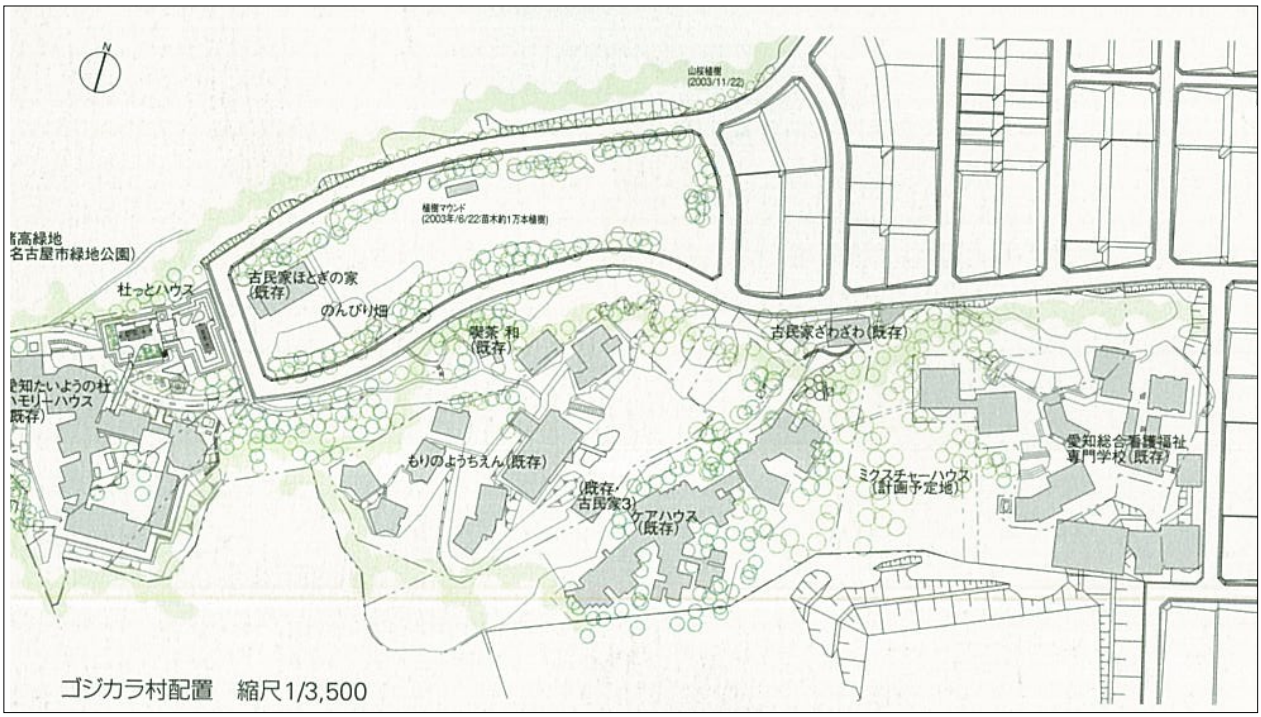
■まちづくりのプロセス

住民の意見を集め続けた結果、高齢者施設に対する要求の声が多数あがり、特別養護老人ホームの開設に至った。このように、住民の声を吸い上げながら、そのニーズに応え続け、最終的には、幼稚園、特別養護老人ホーム、ケアハウス、訪問看護ステーション、ショートステイ、デイサービスセンター、看護の専門学校という複合的なひとつの“村”が形成されていった。

写真 4. 木造建築と風景
ゴジカラ村の中で最も古いもりのようちえんは、修繕されながら、未だ現役で活用されている。ゴジカラ村の風景の根源にあたる建築物である。

原風景の再生と住民の交流

まちづくりの一貫の中で特筆するべきところは、原風景を残すというニーズをコンセプトに反映していることで



ゴジカラ村全体配置図
住民にとって親しみやすい空間を提供できるようにするため、木は極力伐採せず、雑木林の中にひっそり木造の建物や古民家を点在させている。「地域の原風景の再生」というコンセプトが存在している。

参考文献
1）「生涯活躍のまち」に関する取組事例集　平成29年３月　内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局　（委託先：（株）野村総合研究所）
参照　平成29年12月11日
2）社会福祉法人愛知たいようの杜　ゴジカラ村HP（http://gojikaramura.jp/goaisatsu.html）

写真8. ケアハウスゴジカラ村の受付
「施設っぽさ」の排除としたマスタープランをもとに設計されている。高齢者が寂しさを感じないようにするための「住まいらしさ」を演出している。

いる。また、来訪者として、幼稚園を利用する親子、レストランに食事をしに来る地域の高齢者、併設された専門学校の学生等、多様な人が訪れることを想定し、自然と人が集まる場を提供できるような村となっている。

事業者の愛知たいようの杜グループは、①社会福祉法人愛知たいようの杜、②学校法人吉田学園、③ゴジカラ村役場株式会社という３つの組織を役割分担し、高齢者のための介護福祉施設（特別養護老人ホーム・ケアハウス・訪問看護ステーション・ショートステイ・デイサービスセンター）、幼稚園、子育て支援拠点、看護の専門学校、レストランを併設させ、運営している。
また、ゴジカラ村外でも、グループホーム、小規模特別養護老人ホーム、若者・ファミリー層・高齢者等が共存する多世代共同住宅等、従来型福祉の枠組みにとらわれない新しい事業を展開し、ゴジカラ村が地域の拠点となるようになっている。

◆ ゴジカラ村での〝自然〟な暮らし

ゴジカラ村では、住民の住まいに対する満足度を高めながら、長くゴジカラ村に住んでもらうため、他の建物との配置関係や建物間のつながりを意識したものとなっている。例えば、特別養護老人ホームは、共有部が外に向くよう設計し、住民が学生、園児の様子がうかがえるつくりとなっている。また、託児所で預かっている子どもたちを特別養護老人ホームの中で昼寝させる等、子どもたちの自然な施設への出入りを促進することで、施設内の高齢者が子どもたちの笑い声を聞きながら、生活することを実現させた。高齢者施設と幼稚園、専門学校など用途が異なる建築物が同じ敷地内にあるからこそ、たとえ会話をしなくても、お互いの息を感じられる、ちょっとしたイベントの発生を促進する構成とすることで、閉塞感のない、居心地の良い空間を目指している。

住民同士の交流が促進されるような環境の整備、サービスの提供も意識的に行われている。例としては、ゴジカラ村に一度も足を踏み入れていない人に注目し、まちで評判の良い料理店にゴジカラ村のレストランの運営を担ってもらうことで、ゴジカラ村のプレーヤーとなる機会を創出している。他にも、園児の父親たちに幼稚園の修繕を手伝ってもらった後、村内にある露天風呂とビールで交流を促進するという、「親父の会」が企画されている。これは普段なかなか交流することのない父親同士の関わりを深めることで、男性にもまちづくりに参画することを目的としている。このように、まちを形成させるための地域住民参画プログラムと多彩な建築施設を呼応させているゴジカラ村は、住民が自然と足を向け、そこで一定の時間をなんとなく過ごしてしまうような賑わいのある、地域に根ざしたまちづくりとなっている。

作成者：榎村